

(一財)北海道道路管理技術センター便り

道路管理技術委員会

今号より、本誌を発行する一般財団法人 北海道道路管理技術センター(以下「当センター」)の取り組みを紹介します。なお、当センターの概要や事業内容全般については、今年4月にリニューアルオープンしたホームページ(<http://www.rmec.or.jp/>)をご覧ください。

今号では、調査研究・技術開発の主要事業となる「道路管理技術委員会」(以下「委員会」)について、その概要と活動テーマの一例を紹介いたします。

設立経緯

平成5年1月に発生した釧路沖地震の際、当センターは受託業務として現地調査を行い、委員会の運営をスタートしました。その後も道路災害に対する緊急対応中心の活動を続けてきました。

しかしながら、平成8年の豊浜トンネル岩盤崩落など、社会的影響の大きな道路災害が続き、長期的視野での総合的な道路管理の重要性、斜面や構造物の健全度判定手法確立の必要性などが求められるようになりました。

そのため、平成10年1月に「道路管理技術委員会」を改組して、当センターの自主事業として運営することとなり、現在に至っています。

最近の活動テーマ

委員会は、「地盤」「構造」「道路・情報」「広報」4つの部会から構成され、各部会が活動テーマを設定し、調査および研究を進めています。現在の主な活動テーマは右表のとおりです。

▶ 活動テーマの一例 - 地盤部会 土砂災害専門部会 「降雨等と土砂災害の関係(現地検討会)」

《 検討の趣旨と目的 》

「土壌雨量指数」は、これまでの地上に降る雨の量で決まる24時間雨量と異なり、土壌中に溜まった雨の量に基づき、降雨時の土砂災害発生の危険性を示す指標です。

大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、都道府県と気象庁が共同で発表する「土砂災害警戒情報」の運用が平成20年3月から開始され、その発表基準として「土壌雨量指数」が使われています。

こうした現状を踏まえ、当部会は、降雨と土砂災害の関係について調査し、北海道における今後の道路管理上の留意点などについて、地域特性も考慮して検討し、その成果を道路管理者へ提供することを目的としています。

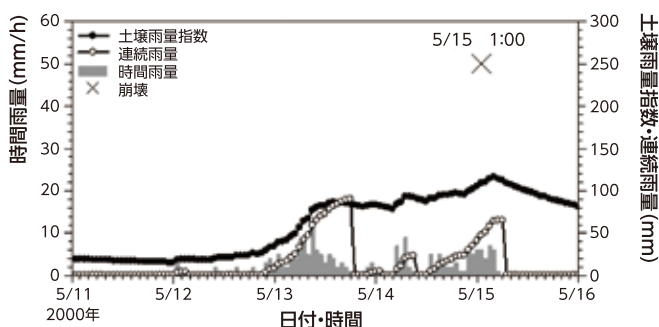


図-1 過去の土砂災害箇所における土壌雨量指数の推移例

部会	専門部会・WG	活動テーマ
地盤	岩盤斜面専門部会	岩盤斜面評価のための調査手法
	土砂災害専門部会	降雨等と土砂災害の関係
	道路防災マップWG	道路防災マップ
構造	橋梁WG	橋梁点検技術と管理
	トンネルWG	トンネル管理技術
道路情報	道路気象情報WG	暴風雪災害による影響と対策
	雪氷WG	雪崩災害の実態と対策
広報	広報WG	講習活動・実用化活動

表-1 現在の活動テーマ

過去の災害発生履歴から、渡島半島、日高、留萌、礼文・稚内の各地域にて、委員(学識者)と専門技術者による現地調査・検討会(ケーススタディ)を実施。



図-2 現地調査・検討会 箇所図



写真-1 崩壊現場の踏査状況



写真-2 調査時の試料サンプリング状況

《まとめ》

土壌雨量指数100を境界として土砂災害が発生している傾向があり、今後の道路管理基準値としての目安とすることが可能であると考えられる。(ただし、地形地質タイプによっては、より少ない土壌雨量指数で崩壊する箇所が見られることに留意。)